

# 体験版の「説明

「皆さん、はじめまして。」

この学園の生徒会長、藤城明日香と申します。

この度は、私の作品の体験版をダウンロードして頂き、誠にありがとうございます♪  
作者になりかわり、御礼申し上げます♪

「さて、今からご覧いただくのは、

私の日常を描いた作品の、  
全編となつておりません。版の、

ただし、全編と申しても、  
製品版に収録されません。

心の声が聞こえる『版には、  
心の声が入っていないので、

是非製品の版も楽しんでください♪  
是非製品の版も楽しんでください♪

それは、私の日常を覗いてくださいますか？  
それは、私の日常を覗いてくださいますか？



明日香の日常を覗いてくださいますか？  
明日香の日常を覗いてくださいますか？

私、優等生で評判の  
生徒会長ですが、  
本当は

でございませす♪

この作品はフィクションです。  
実在する人物・団体・事件等とは、  
一切関係ありません。  
また、登場人物は全員十八歳以上です。

「あ〜だりいなあ〜」

「今日も一日授業か……。やってらんねーぜ」

「おはようございます」

「わ！生徒会長！」

「お、おはようございます！藤城先輩」

「おはようございます。くすっ♪  
どうしたんですか、お二人とも。  
そんなにかしこまっちゃって」

「いやあ、全男子生徒の憧れ、  
藤城先輩に声をかけて頂いたら、  
そりゃあかしこまっちゃいますよ！」

「そうですよ！  
生徒会長に声をかけてもらえるなんて、  
光栄で背筋も伸びちやいます！  
ほらこの通り！」

「くすっ。もう…そんなお世辞言ったって、  
なにも出ませんよ？」

「お世辞なんかじゃないですよ！  
先輩は我々男子の女神なんです！  
挨拶してもらえるだけで本当幸せなんです！」



「もうあんまりおだてないでください♪  
私、全然女神なんかじゃないですよ？」

「いやいや謙遜なさらず。  
先輩はリアル女神様ですよ！」

「その通りです。清楚で可憐でお淑やか…。  
その上勉強も仕事も出来る。  
正に我々男子の理想の女性です」



「もろ、みんな勘違いしてます。  
私なんて、ただ地味なだけですよ？」

「そういう謙虚なところにも女神感が！  
全く、ウチのクラスのバカ女子どもに、  
見習わせたいですよ」

「やだ〜。…うふふっ」



「いい加減認めてください！先輩は女神だと！」

「もう、そんなことばっかり言っていないで、  
しつかり授業頑張ってくださいね♪  
それじゃあ失礼します♪」



「あ、はい！頑張ります！」

「ありがとうございます！」

「はあ…可憐だったな…藤城先輩」

「ああ…あんな人と付き合えたらな…」

「彼氏もいないらしいし…処女なんだろうな…」

「バカ！聞こえるぞ！」



「えー、じゃあこの問題を…藤城。  
前に出てやってくれるか？」

「あ、はい。…えーっと」

「うむ、正解だな。さすが生徒会長」

「えへ♪ありがとうございます」



「すごいねー明日香、あんな問題、簡単に解いちやっつて！」

「ううん。たまたま予習したところだったから」

「また謙遜して…ホント明日香って素敵。清楚で勉強も出来て…女の私でも憧れちゃう」

「そんな…私より敦子ちゃんの方がずっと素敵よ」

「明日香……ありがとう」



「さてと…生徒会に行きますか」

「なあ、藤城。これから時間あるか？」

「へ？あ、あなたは…」

「今からさ、俺と遊びに行かね？な、いいだろ」

「え、そ、そんな…」



「こら、**貴様なに**をしている」

「くっ…**副島かよ**」

「生徒会長嫌がつてるじゃないか、**よせよ**」

「ちっ…**わーったよ**」



「大丈夫でしたか、生徒会長？」

「あ、はい。ありがとうございます。」

「あの男、最低の女ったらしで有名ですから。気をつけてくださいね」

「はい…」



「……というわけで、ボランティア委員会から、生徒会での老人ホーム訪問を提案します」

「うん！素晴らしい提案ですね！是非前向きに検討しましょう。：では、続いて風紀委員長、報告をお願いします」



「…最近、学園の風紀が激しく乱れています。特に不純異性交遊の問題が顕著で…。学園内で…その…性行為をするという事件が、多発してしまっています…」

風紀

「そんな…本当なんですか、それは？」

「はい…残念ながら…」

「そうですか…。早急に対策に取り掛からないといけませんね…はあ…」

「明日香、お待たせ！待ったか？」

「あ、裕二くん♪ううん、今来たところだよ」

「生徒会長の仕事はバツチリ？」

「うん。明日香、生徒会頑張ったよ♪」

「あはは。よしよし♪  
…でもいけない生徒会長だなあ。

「生徒会終わってすぐ、  
大学生の彼氏とデートだなんて♪」

「えーそんなあり。私いけない子じゃないもん！」





「でも不純異性交遊、禁止なんだから？」

「裕二くんとの交際は不純じゃないもん！  
真剣に付き合ってるんだから！」

「あはは、冗談だって！  
頬らませちゃって可愛いなあ。  
ホント明日香をからかうのは楽しいよマ」





「もう裕二くんは！いつつも私を子供扱いして！」

「ごめんごめん、じゃあ行こうか。  
「週間ぶりのデート、楽しもうぜ？」

「もう……くすら……マ」

SYOUYU MUSEN

スーパーゲームセンター  
最新機種  
大特価！  
総力特価！  
総力特価！

旭河

まじな

デ

DUTY FREE 田中 TAKAKADA

誕生

KAN

G501 DECOMO  
この夏だけの  
限定  
大好評

「あはは、ゲームセンター面白かったね〜♪」

「ああ。たまにはこういうデートもいいだろ?」

「うん!また行きたい!...あれ、どうかした?」

「あ、うん.....」

明日香...ちよつとあそこ「で休憩していい?」か

「え?あ.....はい」



庄中製菓電器(株) TEL. 3253-20018

吉坊茶  
GAFI COFFEE

クイカー製菓

サイバー製菓

「くすっ♪」

「あれ？明日香、今笑った？」

まさかそんなにホテル行くの嬉しいの？」

「ち、違います！裕二くんの誘い方が、」

その…なんか可愛かったからだよ！」

「あれ？そうだった？」

「そうです！ほら、もう行くよ！」



「ん？明日香、やっぱり笑ってない？」

「え？ううん、笑ってないよ？」

「そう？俺とエッチ出来るのが嬉しくて、  
思わず笑っちゃってんじゃないの？」

「……………そうなのかも」



「ふふ……よし、良い子だ。  
じゃあ明日香、いつもみたいに、  
こう言っつてごらん？ゴニヨゴニヨ……」

「え……やだあ、そんな……」

「いいから言うんだ」

「あ……はい」



「が…学園全男子の憧れ…。  
せ…生徒会長、藤城明日香は…。  
今から…彼氏とセツクスをします…。」

「よし。じゃあ次はこれだ。ゴニョゴニョ…」



「はあん！ああ…ゴクツ。  
フアンの皆さん…ごめんなさい…。  
男子生徒の女神…藤城明日香は…。  
今から彼氏に…た…食べられてしまいます…」

「……よし。よく出来ました」

「はあ……もう……変態なんだから……」



「変態の彼女になる君が悪いの♪  
じゃあラスト、いつもみたいに、  
ノリノリで、こう言うんだ。ゴニョ、ゴニョ……」

「……はあ……ああ……わかりました……」





「あーあーああん！」

「ふん！ふん！どうだ明日香！気持ち良い？」

「はあん！え？」

「俺のエッチ、気持ち良い？  
正直に言ってもらん？」

パン

「ああ！気持ち良い！気持ち良いよ！」

「何点？俺のエッチは何点？」

「ああん！ああ…ああ…」

パン



「百点！百点だよ！  
裕二くんのエッチは百点満点ですー！」

「はは！嬉しいよ！それ！もっと感じろ！」

「きゃあん！あんあん！」

んぱ

「ああん！あんあん！」

「はあ…はあ…明日香は…エッチ好き？」

「へ？」

「全学園の憧れ、生徒会長長藤城明日香は、  
エッチ好きなの？ほら！言ってみろ！」

「はあん！そ、それは…。」

その…。

ゆ…裕二くんとするのは、  
好きだけど…。」

バン

「え！なにその言い方！  
それじゃあ俺以外ともしてるみたいじゃん！」

「え！ち、違います！  
私、裕二くん以外となんかしてません！」

「あはは♪わかってるよ！からかっただけ！  
明日香が浮気なんてするわけないもんな！」

「もう！またからかった！裕二くんの意地悪！」

「はは、ごめんよ。」

「じゃあ最後こう言いながら、  
一緒にイこう。ゴニヨゴニヨ……」

バン

「へっ……ああん！もう……」

「ああん！裕ニくんと、  
ラブラブエツチ大好きー！」

「くっ！くっ！」

「ああん！」

「はあ…はあ…。  
…超可愛かったよ、  
明日香」

「はあ…はあ…」

ピュッ

「ホントに送っていかなくて大丈夫？」

「うん。反対方向だもん。大丈夫だよ」

「そっか。じゃあまた後でメールするな。バイバイ、明日香」

「うん。バイバイ、裕二くん♪」

旭河







「や、やだあ…」

「もし時間あったらさ、俺と遊ばね？」

「え？え？」

「どうもお姉さんにしてんの？」

「いただきます！すす！…うん！  
母さんの作るご飯はいつも美味しいな！」

「まあ、お父さんったら♪」

「ははは♪でも幸せだな、  
こうして家族四人揃って食事出来るのは！」

「私の同僚なんて、  
娘が外でばかり食事してくるって嘆いてたぞ？  
二人とも真面目な娘に育ってくれて、  
ホントお父さんは嬉しいよ。  
ま、これ私も私の教育のおかげか？  
違うか？」

「くすっ♪」



「ははは！それはそうと明日香、裕二くんとの交際は順調なのか？」

「へえ？」

「もうお父さん！娘のプライベートを、あんまり訊くもんじゃないやありませんよ？」

「いいじゃないか母さん。私はな、あの青年が気に入ってるんだ。あんな誠実な男、今時なかなかいないぞ。どうなんだ、明日香？」

「え……うん。順調だよ」



「そうか！また是非家に連れて来なさい」

「うん。ありがとうお父さん」

「いいなあお姉ちゃんは…素敵な彼氏がいて…  
私なんて、彼氏出来たことないし…  
お姉ちゃんには美人で頭も良いのに…  
はあ…どうして私は…」

「こら友美、そんなこと言わないの♪  
友美はとっても可愛い女の子よ？  
きつともうすぐ素敵な彼氏が出るわ♪」



「ホント？私も彼氏出来るかな？」

「うん！きつとすぐ出来るわよ♪」



「ありがとうお姉ちゃん！  
ホント嬉しい！私、お姉ちゃん大好き！」

「あら♪私もよ。私も、  
友美大好きよ♪」



「はは、仲が良くて素晴らしいな！  
お父さんも、二人のこと大好きだぞ！」

「やだお父さん…恥ずかしい…」

「ふふ♪お母さんも♪二人のこと大好きよ♪」

「もう、お母さんまで…」



「明日香」。  
「あれ？まだ彼氏とメールしてるの？  
ほら、早くお風呂入っちゃいなさうい」

「ちよつと待って。今いとこなの…」



「ん？電話？…明日香？…もしもし」

「あ、もしもし裕二くん。ごめんねこんな遅くに」

「どうした？なにかあったのか？」

「うん…ちよつと声が聞きたくて…」

「明日香？どうしたんだよ…」

「うん…：…なんかね…」

「今日裕二と別れた後にね…」

「変な人にナンパされて…」

「学校でも怖そうなのに声かけられたし…」

「なんか寝ようと思ったたら怖くなっちゃって…」

「明日香…：…ごめん。俺という彼氏がいながら、」

「お前にそんな思いさせて…」

「ううん、裕二くんが謝ることないよ！」

「ごめんね、変な電話しちゃって。」

「声聞いたら安心しました。」

「ごめんなさい。もう切るね。バイバイ裕二くん」

「あ！…：…明日香」





「ふあ…」

「明日香、眠そうね？  
また遅くまで彼とメールしてたんじゃない？」

「うん…ちよっと。じゃあいつてきま〜す」

「もう…意外にだらしないところあるからね…。  
頑張ってるね、生徒会長？」



「全くあなた達は…あら藤城さん、いいところに」

「あ、おはようございませす」

「おはよう。」

「今ね、服装のだからしない生徒を説教してたの。ほらあなた達、彼女を見習いなさい！こんな良い見本が近くにいるっていうのに…」

「そ、そんな、私なんか…」



「わかってるの？あなた達」

「へーい」

「はいはい…」

「なにその返事は！  
大体覇気がないのよあなた達は！  
生徒会長からもなにか言っ  
てあげて！」

「え？あ…はい」



「そうですね…やはり、身だしなみは大事です。外側を整えることで、内面もピリツと引き締めることが出来ますから」

「うんうん！」

「朝は辛いと思います。私だって、しんどいとか眠いとか、あります」



「でもだからこそ、  
しつかり気持ちを引き締めるんです」

「身なりを正して、心を正して、  
そうすれば、ダラダラ過ごすより、  
きつと気持ち良く一日を過ごせますよ？」

「うん！さすが生徒会長！いいこと言うー！  
あなた達、わかった？」

「…はい」

「…わかりました」



おまけ

彼氏とのラブラブエッチ

女の子達の、



「ホント、最近の風紀の乱れには困ったわ…。まさか学園内で性行為をする人が、こんなになくさんいるなんて…」

「お前は。まあまあ、いいじゃないか。お前だって、今から彼氏の部屋で、パコパコするんだろ？」

「もう…下品ね…。」

それに、場所のことを言ってるのよ？ 私には、学園内でするような、盛りをついた猿みたいなのと違うわよ」

「ぶぶ。いいじゃん？猿になっちゃおうぜ…」





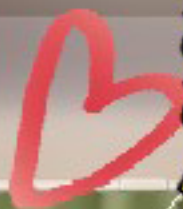
「あ、  
ああああん！」

んん



「ほら、謝れ！風紀委員長が、  
彼氏の部屋でパコパコしまくって、  
ごめんなさいって謝れ！」

「ああん！ごめんなさい！ごめんなさい！  
私、風紀委員長なのに、彼の部屋で、  
ああん！パコパコしまくってごめんなさいーい！」



パコ



「きやあん！イクー！！！」



「はあ…はあ…。  
梓…これからも、こうやって、  
みんなに内緒の危険な恋…。  
続けていこうな…。」

「はあ…ああ…はい」



「誠也くう〜ん♪」

「お、来たな、京子」

「うん、お待たせ♪  
早く誠也くんに会いたくて、走っちゃった♪」

「ふふ、ホント可愛いな。  
でも学園じゃあ全然違うんだってな？  
厳しい先輩って評判じゃないか？」

「そうだけど…これが本当の京子だよ？  
本当の京子は、誠也くんにだけ見せるの♪」

「やべ…マジ可愛い…よし、行くぞ。  
本当のお前…見せてもらおうぞ」



「あああん!  
あゝあゝきやあゝゝん♪  
せ、誠也くん! あああ!」



「ああ！可愛い！可愛いよ京子！  
お前は世界一可愛い女の子だよ！」

「ああああん！そんな♪やだあ♪あ〜〜！」

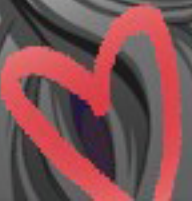
「ぐっ！ダメだ！イク！」

「ああ！ああああああああああ！」

「はあ…ああ…。  
最高だったよ、京子…」

「ああ…はあ…ああ…。  
誠也くん…大好き♪」

ズバ



「うーん…」

「どしたの？暗い顔して」

「いや今日ね…。  
服装のだらしない生徒がいて…。  
ああいうの、どうすればいいんだらうって…」

「だらしないって…。  
若菜さんだって相当だらしないでしょ？  
こうして部屋に彼氏連れ込んで、  
いっぱいくだらなく遊びしちゃうんだから♪  
…ほら、こっち来なよ」

「もう…人が真剣に悩んでるのに…」



「うわ！こんないけない大人のおもちや、  
パツクリ唾え込んじやっつて！  
だらしなすぎるよ！先生！」

「ああん！やだあ…もう…」

ズボ







「ほらほら!こんなに濡らしちゃって、よく生徒のこととやかく言えるよね!」  
「いやあ...ああん!」

ズポ

「そら！イケ！うらあー！」

「きゃん！あ、だめー！ー！」

「はは♪…ほら、若菜さんだって、  
こんなにだらしもないんだからさ、  
だらしない生徒にも、  
優しく接してあげようよ。  
ね、先生？」

「はあ…はあ…うん」



ズーン



「あはは♪デート楽しいね、裕二くん♪」

「はは！そうだな！

……こうしてまた明日香と、

『付き合い始めた記念日デート』  
出来て嬉しいよ」

「うん♪一年間、二人仲良く過ごせて…。

またこうして、二人でこの日を迎えられて、

私、本当に嬉しい♪」



「来年のこの日も、再来年のこの日も、  
…十年後も二十年後も、  
ずっと二人、一緒にいられるといいな♪」

「うん…そうだね」



「明日香…あそ…いい…うか」

「あ…はい」

「明日香……」

「裕二くん……」

「……あ……」



「ああん♪裕二くん！裕二くん！」

パン

「はあ！はあ！明日香！明日香は俺と、あと何回エッチするの？」

「ああ！あん♪…え？」

「この先の人生で、何回俺とエッチするつもり？」

その答えで、明日香がどれだけ長く、俺と一緒にいるつもりなのかわかるよ？」

「あああん！はあ…ひや…百万回です！  
ああ！明日香、この先の人生で、  
裕二ちゃんと百万回エッチしますー！ああ！」

パン

「うわ！百万回もするのか！  
明日香は  
とんでもないドスケベだね！」

「ああん！意地悪！違うもん！  
明日香はずっと裕二くんとい  
ただけだもん！  
あああああ！」

パン



「はあ！俺もだ！俺もずっと一緒にいたい！  
明日香！ああ！イクー！」

「あああ！イクー！」

「はあ…はあ…。  
ずっと一緒にいような…明日香…」



「はあ……うん。裕二くん……」

「ああ……ホント……幸せ者だな、俺は……」

彼氏とのラブラブエッチ

女の子達の、

おしまい

# 最後に明日香から「挨拶

「以上まで体験版は終了です。

最後まで読んで頂いて、ありがとうございます。

さて、どうでした？私の日常？

絵に描いたような優等生の日常でしょ？

でも、テキストとテキストの間に、

不自然な空間があったでしょ？

製品版では、あそこに入ってます♪」



「それからページ番号が飛んでるところ、

そこも、製品版では描かれています♪

明日香が日常を送りながら、

心の中心でどんなことを言っていたのか、

裕二のくんとデートの後や、

彼との電話の後、なにがあったのか…。

是非あなたのお確かめください！

藤城明日香でした！

よし、終わり！

あゝ早くパコパコしたい♪